

vivo

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴォ]

2

FEBRUARY
2011

CONTENTS

水戸室内管弦楽団第81回定期演奏会	1
合唱セミナー2011	2
ちょっとお昼にクラシック 竹原美歌& ルードヴィッグ・ニルソン	3~4
最近の公演から	4~5
インフォメーション	6



写真上左: 原田幸一郎 ©堀田力丸

右: 神尾真由子 ©Uwe Arens-Sony Masterworks

写真下: 水戸室内管弦楽団 第72回定期演奏会より

原田幸一郎がMCOを初めて指揮！ 第13回チャイコフスキー国際コンクール優勝者・神尾真由子も登場！ ● 1/29(土)、30(日) 水戸室内管弦楽団 第81回定期演奏会

小澤征爾氏が病気のため、急きょ内容が変更になった水戸室内管弦楽団 (MCO) 第81回定期演奏会。指揮者に原田幸一郎、ヴァイオリン独奏に神尾真由子を招き、MCOは残念ながら出演できない小澤征爾氏の分までがんばって演奏しようと張り切っています。

このような緊急事態の際、MCOが底知れぬ力を発揮することは、これまでの何度かの事例が物語っています。2006年6月の第65回定期演奏会、帯状疱疹のため小澤征爾氏が降板となりましたが、メンバーのソロをふんだんに盛り込んだオール・モーツァルト・プログラム (指揮者なし) で見事にそのピンチを乗り切りました。さらに2008年5~6月には、小澤征爾氏が腰椎椎間板ヘルニアで本番の一週間前に指揮できないと分かり、広上淳一氏が代役を買って出て第72回定期演奏会を指揮。その直後の第3回ヨーロッパ公演は、指揮者なしで実施。コンサートマスター豊嶋泰嗣のリードでベートーヴェン〈交響曲第4番〉などを演奏し、その指揮者不在とは思えない精緻な演奏は「小澤なしでトップに」(イタリアLa Nazione紙)などと絶賛されました。

第81回定期演奏会も、このような奇跡の伝説の1ページを飾ることになるでしょう。ご期待ください！

■原田幸一郎がMCOを指揮する意義

今回初めてMCOの指揮台に招く原田幸一郎は、なんとと言っても、1969年に結成された東京ク

ルテットの創立者の一人であり、その後12年にわたって第1ヴァイオリンを務めた練達の室内楽奏者として知られています。桐朋学園の精鋭4人 (原田幸一郎、名倉淑子、磯村和英、原田禎夫) によって結成された東京クワルテットは、桐朋学園の前身である「子供のための音楽教室」の創設者、初代室長であり、我が国を代表する音楽評論家である吉田秀和・水戸芸術館館長の教育や音楽理念を「実践の場」で花開かせた代表的な音楽グループでした。

したがって、原田幸一郎が、ここ水戸芸術館の専属楽団「水戸カルテット」と「ATMアンサンブル」の主宰者に選ばれたのは、必然的な流れでした。開館以来、20年にわたって演奏活動を続け、水戸に質の高い室内楽の文化を根付かせたのです。その後、2つの専属楽団は活動を休止することになりますが、原田の弟子の一人である庄司紗矢香が中心となって新たな専属楽団「新ダヴィッド同盟」が結成され、その室内楽精神と音楽的理念が、若い世代へと着実に受け継がれたことは、先の第1回演奏会でお聴きいただいたとおりです。

その原田幸一郎が、今度はMCOの指揮台に立ちます。原田は最近、指揮活動に意欲的に取り組み、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、九州交響楽団、桐朋学園オーケストラなどを指揮、高い評価を得ています。原田の指揮キャリアの中でも、今回のMCOとの共演は特別な意味合いを持つものになるでしょう。なぜなら、MCOのメンバー

の多くは、吉田秀和館長の教育・音楽理念を「実践の場」で実現しようと長年にわたって鍛練を重ねてきた演奏家たちであり、原田にとってはまさに「同志」たちとの共演になるからです。このような特別な意義をもつ共演は、水戸芸術館だからこそ実現できるものです。プログラムは、モーツァルト〈ディヴェルティメント K.136〉、メンデルスゾーン〈ヴァイオリン協奏曲〉、モーツァルト〈交響曲第36番“リンツ”〉の3曲。乞うご期待！

■ヴァイオリンの新星、神尾真由子

2007年の第13回チャイコフスキー国際コンクールで優勝して以来、その艶やかな音色と卓抜したテクニックで注目を浴び続けるヴァイオリニスト神尾真由子が、水戸芸術館に初登場します。ニューヨーク・タイムズ紙では「正確なテクニックとあたたかなピロートの音色で示す強靱な表現力」と絶賛され、世界一流の指揮者やオーケストラから絶えずラブ・コールが寄せられる新世代のヴィルトゥオーゾです。

その経歴は、幼少の頃からの天才性を物語っています。1997年、10歳の若さでデュトワ指揮NHK交響楽団と共演し、ソリストとしてデビュー。1998年、ユードイ・メニューイン国際コンクールのジュニア部門に最年少の11歳で入賞。2000年、ニューヨークへ移り、ジュリアード音楽院プレカレッジでヴァイオリンの名教師ドロシー・ディレイ、川崎雅夫 (MCOメンバー) に師事。ヤング・



新実徳英

コンサート・アーティスト国際オーディションで第1位。2002年4月、桐朋女子高校の特待生となり、原田幸一郎に師事。2004年、モンテ・カルロ・ヴァイオリン・マスターズ優勝、ダヴィッド・オISTRAフ国際ヴァイオリン・コンクール第1位。そして、2007年の第13回チャイコフスキー国際

コンクールで優勝を果たします。超難関と言われるこのコンクールのヴァイオリン部門での日本人の優勝は、1990年の諏訪内晶子に続いて2人目の快挙でした。2008年には、ソニー・クラシカル・インターナショナルと国際専属契約を交わし、『バガニーニ：24のカプリース』、『チャイコ

フスキー：ヴァイオリン協奏曲』などのCDをリリースしています。

師でもある原田幸一郎が指揮するMCOとのメンデルスゾーン〈ヴァイオリン協奏曲〉で、鮮烈な水戸デビューを飾ってくれることでしょう。どうぞお聴き逃しなく！ 〈関根〉

●●● 水戸室内管弦楽団 第81回定期演奏会 ●●●

2011年1月29日(土) 18:00開場・18:30開演
1月30日(日) 13:30開場・14:00開演

会場：水戸芸術館コンサートホールATM

指揮：原田幸一郎
ヴァイオリン独奏：神尾真由子

モーツァルト：ディヴェルティメント 二長調 K.136(125a)
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64
モーツァルト：交響曲 第36番 八長調 K.425 〈リンツ〉

料金(全席指定)：S席6,000円 A席5,000円 B席4,000円

お問い合わせ：水戸芸術館チケット予約センター 029-231-8000

〈大スクリーンコンサートのご案内〉

NHK茨城県域デジタル放送で、演奏会の様様を水戸芸術館から生中継します。大型スクリーンによる鮮明な映像とクリアな音質で、演奏会場の雰囲気そのままにお楽しみいただけます。当日会場では、楽団のCDや芸術館オリジナルグッズの当たる抽選会もあります。どうぞ家族そろってお越しください。

1月29日(土) 18:30~20:30(開場17:30)

会場：水戸市総合運動公園体育館(見川町)

入場無料(事前申込不要)

お問い合わせ：水戸芸術館 029-227-8111

作曲家・新実徳英氏の指導で、合唱の愉しさを心から味わう

● 2/27(日) 合唱セミナー2011 講師：新実徳英

茨城県合唱連盟、茨城県高等学校文化連盟との共催により毎年実施している「合唱セミナー」。畑中良輔氏、林光氏、池辺晋一郎氏、桑原妙子氏、栗山文昭氏など日本を代表する作曲家、指揮者、合唱指導者を講師に迎え、講習曲を半日かけて練習するという催しです。どこかの団体に所属していなくても、合唱を愛する方ならばどなたでも参加できるセミナーですので、ぜひ会場に足をお運びください。

講習曲について

今回講師にお招きするのは、2002年以来9年ぶりの登場となる作曲家・新実徳英氏。新実氏は〈焰の螺旋〉〈創造神の眼〉〈生命連鎖〉など管弦楽作品で名作を残す一方、「合唱に熱中したのがきっかけで作曲を志した」と自ら語る通り、合唱作品にも力を入れ、コンスタントに作品を発表しています。〈ことばあそぶうた〉〈幼年連禱〉〈やさしい魚〉

〈失われた時への挽歌〉〈花に寄せて〉〈祈りの虹〉〈をとこ・をんな〉〈光の樹〉など、その合唱作品リストを見ると愛好家の皆さまにはおなじみの名曲がズラリと並んでいます。

〈白いうた 青いうた〉は、作詞家・谷川雁と作曲家が組んで創作した53曲からなるうたのシリーズ。まず曲が作られて、その後に歌詞が付けられるという、クラシックの声楽作品としてはユニークな方法で創作されました。それだけ、「旋律」にこだわって作られているのです。今回講習曲に選ばれたのは、「第3集」から〈盲導犬S〉(卒業)〈中世風〉〈ちいさな法螺〉〈あしたうまれる〉〈われもこう〉の6曲。様々なキャラクターのうたを歌い分ける楽しみを存分に味わってください。ピアノ伴奏は、「300人の第九」のエレクトーン奏者としてもおなじみの小林由佳氏が務めます。

もう1曲の講習曲は〈聞こえる〉。1991年、第58回NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部

課題曲として作られたもので、現在も多くの人に愛唱されている名曲です。今回は、大成女子高等学校吹奏楽部(指導：船山貴司氏)のご協力を得て、吹奏楽の伴奏版で歌います。吹奏楽と合唱によるスケールの大きなアンサンブルを、どうぞご体験ください。

ご参加にあたって

〈白いうた 青いうた 3〉の楽譜(1,470円、音楽之友社刊)は、各自でお買い求めください。水戸芸術館ミュージアムショップ「コントロールポアン」でも扱っております。〈聞こえる〉の楽譜は、チケットご購入の際にお渡しします。〈聞こえる〉の楽譜代は参加チケット代に含まれます。なお、当日は音取り練習はいたしませんので、各自事前に譜読みを行ってきてください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。 〈関根〉



写真左：竹原美歌

写真右：ルードヴィッグ・ニルソン

疾走するパーカッションのリズムに乗って、新春スタート・ダッシュ！

● 2/10(木) ちょっとお昼にクラシック —— 躍動のパーカッション・デュオ ——

平日の午後に開催する1時間のコンサートとして、好評いただいている「ちょっとお昼にクラシック」シリーズ。クラシック音楽にはあまり馴染みの無い方々でも気軽に楽しみたいだけの親しみやすいプログラムと破格の料金!その一方で、クラシック音楽を深く愛する方々にもご満足いただける第一級の演奏家たちの出演!まさに水戸芸術館がお贈りするスペシャル・ランチ・メニュー!でございます。

固い絆で結ばれた2人のパーカッショニスト

今回は「躍動のパーカッション・デュオ」というタイトルで、見るも楽しい、聴くも楽しい、様々な打楽器の演奏をお届けします。出演は、竹原美歌さんとルードヴィッグ・ニルソンさん。お二人とも小澤征爾・水戸室内管弦楽団音楽顧問にその実力を認められ、水戸室内管弦楽団にゲスト出演を重ねている演奏家です。

竹原美歌さんは、桐朋学園大学の大学院を経て、スウェーデン王立ストックホルム音楽大学に留学、同大学院のソリストディプロマを首席で修了しています。その後、スウェーデン、エストニア、イギリス、ポーランド、スコットランド、イタリア、フランスなどの国際打楽器フェスティバルや音楽祭に招かれ、その地歩を築いていきました。日本では、サイトウ・キネン・オーケストラに参加しています。さらに、ドゥダメル指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団、ドレスデン・フィルハーモニー管弦楽団、ルツェルン交響楽団、ストックホルム王立管弦楽団などと共演している才媛です。

ルードヴィッグ・ニルソンさんは、竹原さんと同じスウェーデン王立ストックホルム音楽大学を2000年に卒業。翌年にはスウェーデン王立歌劇場管弦楽団の首席打楽器奏者に就任しています。日本では小澤征爾音楽塾の講師を務め、「東京のオペラの森」やサイトウ・キネン・オーケストラにも参加しています。

実は、竹原美歌さんとルードヴィッグ・ニルソンさんは、ご夫婦の間柄で、水戸室内管弦楽団の

演奏会でもしばしばお二人揃って出演されることもあります。さらに、お二人はこれまでに、スウェーデン各地に加え、イタリア・カプリ、東京オペラシティなどでもデュオの公演を行っているそうです。

国際的スケールで活動を行っている、稀有な「夫婦（めおと）パーカッション」を、どうぞお楽しみにしてください!!

多彩な打楽器のレパートリー

今回の演奏会では、マリンバ、ヴィブラフォン、太鼓、コンガ、ボンゴ、ベルツリー、ウッドブロック、ログドラム、トムトム、フットドラム、シンバルなど、とても多くの打楽器が登場し、様々な打楽器の音楽をお聴きいただけます。今度の演奏会でお聴きいただく作品について、簡単にご紹介したいと思います。

ラヴェルの〈道化師の朝の歌〉は、元来はピアノ曲でのちにラヴェル自身の手で管弦楽化された作品です。ラヴェルのオーケストラ曲のなかでも、特に愛好されているもののひとつです。スペインの伊達男の朝帰りの鼻唄を、シンバル、トライアングル、カスターネットなど多彩な打楽器が登場して、リズムカルに、色彩豊かに演奏される作品です。今回はすべて打楽器だけで、この作品を演奏します。

打楽器といえば、リズムを刻むものというイメージが強いですが、マリンバやヴィブラフォンなど、美しいメロディを奏でることのできる打楽器も数多くあります。今回はそんな美しいメロディを打楽器の演奏でお楽しみいただくべく、J.S.バッハの〈インヴェンションとシンフォニア〉とグリーグの〈春 作品33の2〉を取り上げます。ピアノを学ぶ方なら必ず接する作品集のひとつがJ.S.バッハの〈インヴェンションとシンフォニア〉でしょう。今回はこの中の〈2声のインヴェンション〉から、第4、13、8番を演奏します。シンプルで厳格な対位法音楽の精華を今回はピアノではなく打楽器の演奏でお聴きください。グリーグの〈春〉は、元来は歌曲で、とてもゆったりとしたテ

ンポで、春の到来を切々と歌い上げています。弦楽合奏などにも編曲されて、たいへん愛されている作品です。北欧に住む竹原さんとニルソンさんが、同じ北欧のノルウェーの歌を聴かせてくれます。

さて、打楽器の音楽が飛躍的な発展を遂げたのは20世紀に入ってからのことです。20世紀の初頭にストラヴィンスキーやバルトークなどが、複雑なリズム構造を音楽に取り入れはじめ、オーケストラやピアノ音楽などに打楽器的な効果を求め始めました。さらに、ヴァレーズなどの次の世代の前衛作曲家たちが、新しい音響を求めて西洋以外の地域の打楽器も多く導入し、打楽器のアンサンブルのための作品を数多く作っていきました。そして今日でも、作曲家たちは、打楽器を他の楽器と対等かそれ以上に重要な楽器として扱い、しばしば作品を書いています。

今回の演奏会では、そうした現代作品からケセナキスの〈ルボンb〉、ペルトの〈鏡の中の鏡〉、三木稔の〈マリンバ・スピリチュアル〉をご紹介します。ケセナキスはギリシア人を両親にもち、ルーマニアに生まれ、フランスで活躍した作曲家です。数学者、建築家でもあった彼は、作曲の過程にコンピュータによる演算を取り入れて、多くの作品を生み出しました。「ルボン」とは、「やまびこ」とか「跳（は）ね返り」という意味をもちます。ペルトは、エストニア生まれの作曲家で、中世音楽を彷彿とさせるようなシンプルなスタイルの音楽を残しています。〈鏡の中の鏡〉のオリジナルはピアノとヴァイオリンのための作品で、2つの楽器それぞれが同じ音形を何度も反復しながら進行する、穏やかで透明な、凜とした佇まいの音楽です。三木稔の〈マリンバ・スピリチュアル〉は、欧米だけでも数千回、しかもそのほとんどが演奏会の最後に演奏されているという傑作です。1980年代のアジアやアフリカでの飢餓による犠牲者たちへの「魂鎮め」、「魂振り」を願って作曲されました。

ここまでのご紹介でお分かりの通り、打楽器の音楽と言っても、ポピュラー音楽などにイメージ

される、暴力的、破壊的なイメージとはかけ離れた、限りなく深遠で澄み渡った音の世界がそこにはあります。その本能を揺さぶるような音響世界の入り口を、どうぞ「ちょっとお昼に」のぞいてみてください。

1ドリンク付きで1,200円!! さらに、館内レストラン「ヴェールブランシェ」のご協力で、チケットをお持ちの方は2月1日(火)から2月27日(日)まで、同レストランのランチもしくはディナーに10%の割引価格でご優待します。チケット1枚につき1名様が有効です。是非、こちらもご利用ください。

以下、竹原美歌さんがEメールにて、インタビューにお答えくださいました。ご紹介させていただきます。 《中村》

——竹原さんがお感じになっている打楽器の魅力についてお聞かせください。

竹原：広い可能性をもっている楽器だと思えます。現代に入り、たくさんのソロ曲やコンチェルトが書かれ始めてきましたが、基本的には多くの様々な楽器の演奏者といっしょに演奏できることが魅力です。レパートリーがバロックよりも前の時代から存在していることで、広いキャパシティが求められていることも打楽器奏者の醍醐味です。時代の移り変わりとともに、作曲家と打楽器奏者の共同作業は深められて行き、レパートリーも楽器も高度なものを求められるようになりました。

サウンドやタイミングのセンスも磨かなくてはいけません。マリimbaや木琴のようにメロディー打楽器もたくさんあります。リズム感だけではなくメロディーを歌えることも魅力です。

——今回の演奏会の聴きどころを教えてください。
竹原：今回の演奏会はたくさんの打楽器が、ス

テージ上に並びます。そのなかにはマリimbaやヴィブラフォンと言ったメロディー打楽器も登場します。

ピアノ曲やオーケストラ曲をアレンジしたのもや打楽器オリジナルの曲もたくさん組んでいきますので、打楽器という楽器そのものはもちろんですが、音楽の楽しさをみなさんに感じてもらえたらうれしいです。

——最後に水戸の聴衆にメッセージをお願いします。

竹原：水戸の財産、水戸芸術館で演奏できることは私たち演奏家にとっても財産になります。すばらしい音響を最大限に活かし、みなさんの耳だけではなく体全体で音楽を感じていただけるようにがんばりたいと思います。

——ありがとうございました。

最近の公演から

DECEMBER



1



2



3



4

アートタワーみとスターライトファンタジー 第15回 クリスマス・コンサート

【市内小中学校 芸術館コンサート】(12月4日)

子供たちにふるさと水戸で夢を与えたいと市民有志の方々が、募金活動をして、水戸芸術館のタワーや建物、さらに水戸駅前などをライトアップする「アートタワーみとスターライトファンタジー」。毎年、どのようなライトアップになるのか、さまざまな趣向が凝らされていて、その変化も楽しみのひとつです。この「スターライトファンタジー」の関連イベントとして、水戸市内の小・中学生が日頃の音楽活動の成果を披露する「クリスマス・コンサート」も、今回で第15回目となりました。今年は21校、26団体、およそ900人の子供たちが参加して、金管合奏、吹奏楽、器楽、合唱などの演奏が披露されました。スターライトファンタジーの実行委員会を中心とするヴォランティアの方々が運営を支えてくださっています。《中村》

中村真由美ピアノ・リサイタル (12月5日)

水戸市在住のピアニスト、中村真由美さんがリサイタルを開きました。水戸芸術館では最近、妹の佳代さんとのデュオが多く、ソロのステージは久しぶり。しかし、そのピアノの力強さ、美しい音色、卓越したテクニックは健在でした。前半は、ベートーヴェン〈ワルトシュタイン〉とショパン〈ノクターン 作品15の1〉〈幻想ポロネーズ〉。ベートーヴェンでは無類の勇気が、ショパンでは優雅さと祖国への郷愁が表現されました。後半は、まずトゥリーナ〈幻想舞曲集〉でスペインの情熱と気だるさを演出し、次にプーランク〈3つのノヴェレット〉でフランスの洒脱さと多彩な音色を表現。プログラムの最後に置かれたバルトーク〈ソナ

タ〉は、「茨城の名手・名歌手たち第3回」で初めて芸術館で演奏したという、中村さんにとって思い出深い作品。ピアノは「打楽器」でもあることをあらためて認識させるリズム的な演奏で聴衆を沸かせました。アンコールは、ショパン〈雨だれ前奏曲〉とサティ〈ワルツ=バレエ〉。《関根》
アンケートから●ショパンの聴きなれたノクターンがとてもダイナミックに聴こえて新鮮でした。プーランクは初めてでしたが、CDを買ってみようかと関心がわきました。(ひたちなか市：T.H.さん) ●第1曲目のベートーヴェン、最高の美しさでした。豊かな人間性、音楽性に支えられ、力量、技術はすばらしいものでした。プロとしてすばらしい感動を聴く人に与えてくれたと考えます。(水戸市：T.K.さん) ●本物のピアノ演奏を娘に聴かせることができ、良い刺激になりました。(無記名の方)

水戸の街に響け！300人の《第九》2010 (12月12日)

300名からなる市民の大合唱団、エレクトーン、ピアノ、ティンパニでオーケストラ・パートを演奏、そして野外での公演・・・全国的に見ても大変ユニークな水戸芸術館の《第九》が、10回目の公演を迎えました。これもこの《第九》に集うすべての皆様の熱意と献身的なご協力のおかげと心から感謝申し上げます。

今年は暖かい日差しのもと、これ以上ないくらい絶好のコンディションの中、力いっぱい演奏することができました。鈴木良朝さん(指揮)、県合唱連盟の先生方のご指導のもと、9月から練習に励んできた300名を越える大合唱団が、その成果を見事に発揮し、師走の水戸の街に歓喜の歌声を響かせました。小濱妙美さん(ソプラノ)、

1～2. アートタワーみとスターライトファンタジー 第15回 クリスマス・コンサート

【市内小中学校 芸術館コンサート】

3～4. 中村真由美ピアノ・リサイタル



1



2



3



4



5



6



7



8

山本彩子さん（アルト）、倉石真さん（テノール）、清水良一さん（バリトン）の独唱陣、小林由佳さん、久保田彩子さん（以上エレクトーン）、中村真由美さん、中村佳代さん（以上ピアノ）、尾花章子さん（ティンパニ）の器楽陣も演奏に華を添え、また合唱を力強く支えました。

この《第九》が、あいかわらず不安ばかりのこの世の中に希望の光を届けられるよう、次回以降もがんばってまいりますので、ますますのご声援をよろしくお願いいたします。《関根》

新ダヴィッド同盟 第1回演奏会(12月22日)

庄司紗矢香（ヴァイオリン）、佐藤俊介（ヴァイオリン）、磯村和英（ヴィオラ）、石坂団十郎（チェロ）、小菅優（ピアノ）という5人の才能豊かな演奏家が集まり、水戸芸術館館長・吉田秀和が命名した室内楽グループ「新ダヴィッド同盟」の旗揚げ公演が大成功に終わりました。これだけ個性の強い演奏家が集まるということで、実際に音が出るまで「きちんと合うのか」という不安がなかったと言えるかもしれませんが、4日間の充実したりハーサルを通じてわかったことは、彼らには「極めて水準の高い音楽」という共通言語があり、その言語を使って驚くほど柔軟に自己を主張したり、他と協調したり出来る、ということです。日を追うごとに、メンバー同士の人間的な絆が深まっていったのもすばらしいことでした。第1回演奏会の内容がどうだったかは、下記アンケートをご覧ください。「新ダヴィッド同盟」の新たな挑戦は始まったばかりです。今後ともご声援をよろしくお願いいたします。

水戸での演奏会の翌日23日には、碧南市芸術文化ホール（愛知県）での館外公演を行い、こちらも大盛況でした。アンコールは、ブラームス（ピアノ五重奏曲 作品34）から第2楽章。《関根》

アンケートから●まずは、水戸芸術館に新たな音楽集団が誕生したことを大変嬉しく思います。毎年、若い音楽家たちが水戸に集って、それぞれが得た音楽の成果を持ち寄って室内楽曲を奏でるといっても大きな楽しみだし、聴きに行く私にとっても多忙な時期の励みになってくれそうです。（日立市：T.O.さん）●期待通りの名演奏でした。どの曲を聴いても、私の心身は感動と歓喜に満たされました。初めての演奏会というのに、あの緊密なアンサンブル、皆さんの高い音楽的感性の賜物なのでしょう。（町田市：H.K.さん）●すばらしいハーモニーで、正に室内楽の醍醐味。優しく、力強く、繊細な音色を存分に楽しみました。（水戸市：C.Y.さん）●5人の演奏者が無理のない協調性でさわやかな雰囲気を出し、何とも心地よい流れ。（世田谷区：M.H.さん）●一流の演奏というのみならず、5名の人間性の素晴らしさが際立った演奏でした。ブラボー！！（無記名の方）

クリスマス・プレゼント・コンサート2010 (12月23日)

畑中良輔芸術総監督の企画・進行により、全4ステージでお贈りしました。今回は日本の歌をたっぷりとお楽しみいただきました。開演前にはエントランスホールでNHK水戸児童合唱団が、クリスマス・ソングを披露。本演奏会では、ソプラノの関定子さん、メゾソプラノの青山恵子さん、テノールの平良栄一さん、バリトンの竹澤嘉明さん、ピアノの塚田佳男さんが舞台に登場しました。彼らは畑中先生を慕い、ともに日本歌曲の魅力を追い続けている旧知の仲間たちで、その信頼を寄せ合う親密で優しい雰囲気は演奏会全体を彩り、心温まるステージが繰り広げられていきました。第1ステージは、滝廉太郎の《花》、北原白秋の《からたちの花》、平井康三郎の《ちびつぐみ》など、《花》と《鳥》の名前をタイトルにもつ歌が紹介されました。会場を笑いの渦に巻き込んだのが第2ステージです。4人の歌手は、まさに芸達者で、歌に演技に大活躍！ユーモラスで楽しい歌の数々が紹介されました。第3ステージは出演者のサイン入りCDや書籍などが当たる恒例の「クリスマス・プレゼント・コーナー」。第4ステージは、《ベチカ》、《この道》、《ゴンドラの歌》など、懐かしく、馴染みの深い歌の数々をお贈りしました。演奏会では、水戸第二高等学校コーラス部とNHK水戸児童合唱団の合同による合唱作品、茨城を中心に活動するピアニスト井上修さんによるピアノ・ソロ曲などお楽しみいただきました。アンコール曲としては、畑中先生による振付けの紹介があり、会場の皆さんとともに信時潔の《野火》を歌い、踊りました。終演後エントランスホールで、水戸第二高等学校によるクリスマス・キャロルの合唱が行われました。オルガン伴奏は長田真実さん。《中村》

アンケートから●畑中先生の新しい企画・構成で、身近で懐かしい日本の歌を聴かせていただき感激です。メゾソプラノの青山先生のアカペラ独唱（うぐいす）、感動的でした。（鹿沼市：T.F.さん）●なつかしい童謡、抒情歌、日本歌曲がすばらしい4人の歌手により紡ぎ出され、心が満たされました。第2ステージの笑いを誘う歌は、今までのクラシックのコンサートでは経験したことがない、とても楽しいものでした。（那珂郡：M.S.さん）●畑中先生の企画は欠かさず聴いているファンのひとりです。今年もこんなにもすばらしい日本の歌があることの喜びに浸りました。出演者の方々の個性豊かな表現、芸達者なこと、コーラス、重唱、ソロと魅力たっぷり。明日への希望と元気をたくさん、ありがとうございました。（水戸市：M.S.さん）

1～2. 水戸の街に響け！300人の《第九》2010
3～5. 新ダヴィッド同盟 第1回演奏会
6～8. クリスマス・プレゼント・コンサート2010

information

■ チケットに関するお問い合わせ

…水戸芸術館チケット予約センター/029-231-8000

営業時間/9:30～18:00(月曜休館)

■ 公演内容や企画に関するお問い合わせ

…水戸芸術館音楽部門/029-227-8118

■ 【ATM便り】毎月1回茨城新聞に不定期登場。

● ツイッター開設のお知らせ ●

水戸芸術館音楽部門のスタッフによるツイッターを開設しています。皆様のフォローをお待ちしております。

http://twitter.com/ConcertHall_ATM

チケット・インフォメーション

〈1月29日(土)発売分〉

◎水戸室内管弦楽団 第82回定期演奏会

4/9(土)18:00開場・18:30開演

4/10(日)13:30開場・14:00開演

料金(全席指定):S席¥8,000/A席¥6,500/B席¥5,000

※水戸室内管弦楽団第82回定期演奏会には、1/25(火)より運営維持会員、1/26(水)より友の会会員の先行電話予約がありますので、1/29(土)の一般発売の時点で、券種によってはお客様のご希望に添えない場合があります。予めご了承ください。

これからの演奏会・残席情報

○…残席あり(20席以上) △…残席わずか(20席未満) ×…残席なし
中央…中央ブロック 左右…裏…左右ブロックおよびステージ裏 補助…補助席

◎水戸室内管弦楽団 第81回定期演奏会

……………1/29(土)中央×、左右・裏△、補助○

……………1/30(日)中央×、左右・裏△、補助○

◎〈ちょっとお昼にクラシック〉

竹原美歌&ルードヴィッグ・ニルソン

～躍動のパークッション・デュオ! ……2/10(木)中央△、左右・裏○

◎兼氏規雄 クラリネット・リサイタル

……………3/6(日)自由席○

◎〈ちょっとお昼にクラシック〉

上村昇(チェロ)&迫昭嘉(ピアノ)

～魅惑のデュオがお届けする、優雅な午後のひととき～

……………3/9(水)中央○、左右・裏○

◎小川 遥

ピアノ・リサイタル ……3/12(土)自由席○

◎ヒラリー・ハーン

ヴァイオリン・リサイタル ……3/26(土)中央×、左右・裏○

◎水戸うらら女声合唱団

～35周年記念演奏会～ ……3/27(日)自由席○

1/14(金)現在の状況です。

※公演当日に残券がある場合、開演1時間前より水戸芸術館チケットカウンターでお得な学生券を発売いたします。ご購入の際には学生証(記名章)をお持ちください。公開セミナーなど、学生券のない公演もございますので、予めお問合せ下さい。

※固定席が売り切れ次第、補助席を販売いたします。

水戸芸術館の主な2月のスケジュール

コンサートホールATM

■ 〈ちょっとお昼にクラシック〉

竹原美歌&ルードヴィッグ・ニルソン ～躍動のパークッション・デュオ!～

2/10(木)13:30開演 料金(全席指定):¥1,200(1ドリンク付き)

■水戸市立笠原小学校金管バンド部 第19回定期演奏会

2/20(日)14:00開演 入場無料

■大手橋プラムコンサート

2/26(土) 入場無料

■合唱セミナー 講師:新実徳英

2/27(日)10:00開始

参加費(全席自由):一般¥1,500・高校生¥1,000・中学生以下¥800

エントランスホール

■パイプオルガン ブロムナード・コンサート

2/5(土) 開演時間:12:00/13:30(2回公演) 入場無料

※演奏は各回20分程度です。

ACM劇場

■『ライフ・イン・ザ・シアター』

2/4(金)19:00開演、5日(土)16:00開演、6日(日)14:00開演

料金:一般¥2,500 学生¥1,800(当日一律¥2,800)

■日本映画が好き 2011

2/19(土)10:00～「煙突の見える場所」 12:30～「お早よう」

2/20(日)10:00～「裸の島」 12:20～「名もなく貧しく美しく」

■チェルフィッチュ『ゾウガメのソニックライフ』

2/26(土)16:00開演、27(日)14:00開演

料金:一般前売¥2,500 学生前売¥1,800(当日一律¥2,800)

現代美術センター

■クワイエット・アテンションズ 彼女からの出発

2/12(土)～5/8(日)9:30～18:00 ※入場は17:30まで

休館日:月曜日

※2011年3/21(月・祝)は開館、翌3/22(火)休館

入場料:一般800円、団体(20名以上)600円

※中学生以下・65歳以上・障害者手帳をお持ちの方と付添いの方1名は無料

茨城の主な2月の演奏会 ※有料公演のみ

◆佐川文庫 TEL/029(309)5020

■中村静香 ヴァイオリン&ヴィオラ・リサイタル

2/26(土)18:00開演

◆常陽藝文ホール TEL/029(231)6611

■茨城演奏家連盟第13回定期演奏会 2/13(日)14:00開演

◆水戸市民会館 TEL/029(224)7521

■茨城音楽文化振興会第9回定期演奏会 アリスプリングコンサート

2/20(日)14:00開演

水戸芸術館音楽紙 [ヴィーヴ] 2011年1月発行 第155号

編集・発行/水戸芸術館音楽部門 〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

TEL:029-227-8118 FAX:029-227-8130

e-mail [ankmr@arttowermito.or.jp] URL [http://www.arttowermito.or.jp/]

編集/水戸芸術館音楽部門(五十音順):伊東慶子 大金絢子 関根哲也 高巢真樹 中村昇

DTP/村田征司 [株式会社イセブ]

印刷所/株式会社あけぼの印刷社

次号は…
春到来!あのVn奏者も登場します。